



平成26年1月1日発行

第10号

京田辺市観光ボランティア

ガイド協会 広報部編集

☎ 0774-68-2810

## 平成26年 新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

昨年は猛暑・台風による災害があり、いろいろと大変な年でありました。

ですが、京田辺市においては玉露日本一に輝く事ができました。当協会も初めて市民参画型の研修会を開催することができました。

さて、本年は第5期生の観光ボランティアガイドの養成を行い、増員・人材の面でも充実を図ります。市内外の皆さまに、より多く京田辺を知っていただくよう努め、少しでも市の発展に貢献できればと思っております。

その為にも他の団体の皆さまとも横のつながりを強く持ちたいと願っております。そして新しい観光資源を生み出し積極的に活動し市民の皆さまが参加しやすい企画を行ってまいります。

中高年の皆さまが増える社会の中楽しく過ごせる場を作っていきたいものです。多くの皆さまと一緒に楽しく観光ボランティアガイドを目指し頑張っております。(副代表 新井達雄)



## ボランティアガイド日誌

### 9月5日 飯岡・壽寶寺他をガイド

奈良あせびの会の26名の方々を、

近鉄興戸駅～草内(法泉寺・昨岡神社)～飯岡(ゴロゴロ山古墳・薬師山古墳・昨岡神社)～飯岡の渡し～壽寶寺～佐牙神社～近鉄宮津駅

のコースでご案内しました。

興戸駅に集合の後、準備体操をし二班に分かれて出発。前日の雨は一転、快晴に恵まれ和らいだ雰囲気の中スタートしました。

まず草内(法泉寺・昨岡神社)をご案内。皆さん重文の十三重石塔や珍しい杵形の絵馬に興味を持たれました。飯岡では古墳や井戸の説明の後、トイレと昼食場所に地元の旧家をお借りしました。皆さん大いに喜ばれ感謝されていました。また、旧家の趣に興味を持たれ、建物の説明を聞かれ



壽寶寺千手観音立像

る方もおられました。

昼食後、飯岡の渡しを見て壽寶寺へ向かいました。壽寶寺では、住職から本堂で詳しいご説明を聞いた後、重文の十一面千手千眼観音立像を拝観しました。その見事なお姿に「京田辺にこのような素晴らしい仏様が祀られているとは…」と驚かれたり、感動されたりしていました。

当初計画では三山木駅で解散の予定でしたが時間の余裕と皆さんのご希望もあり、佐牙神社に立寄り近鉄宮津駅で解散しました。解散の折、またの来訪のアピールに対して「ぜひ京田辺に再訪したい」との声をいただきました。(神山)

### 9月23日 JRふれあいハイク

#### 「初秋の甘南備山から平安京を望む」

JR 大住駅から虚空蔵滝、甘南備山雌岳山頂の直下にある白石から船岡山を望み、薪神社を經由してJR京田辺駅に至るルートを歩きました。当日は天候に恵まれ参加者75名全員が完歩できて気持ちの良いハイキングでした。

虚空蔵滝へのルートは前もって飛び石を設置したのでスムーズに行動出来、また冷気が漂い気持ち良かった。



甘南備山からの眺望

吉ヤンの滝へのルートはいつになく水量が多く見栄えのする滝の飛沫様相でしたが、直前の19号台風の影響で通行できずルート変更を余儀なくされ残念でした。山歩き中心のコースの為水分補給を心配しましたが、お弁当屋さんが弁当と共にペットボトルも用意して頂けて解決しました。下山後の彼岸花や実った稲穂、案山子などの里山風景と、事前をお願いしていた「はちみつ屋」での買い物など参加の皆さんに喜んで頂けました。(守口)

### 10月6日 京田辺茶まつり

玉露の産地京田辺で「健康長寿のパワースポット巡りと茶まつり」で、秋の一日を楽しんでいただきました。

先ずは茶まつりの会場一休寺へ。参道では京田辺茶手もみ技術保存会による「手もみ製法の実演」



一休寺の茶まつり

や、茶業青年団による「おいしいお茶の入れ方教室」や「玉露の無料接待」で、健康増進に役立つお茶に親しんでいただきました。

次は、いにしへの農耕パワーをいただきに新神社へとむかいました。当神社は山城国造りの祖神といわれ、また長寿の神様の竹内宿禰も祀られています。

昼食をすませ甘南備寺までウォーキングです。

甘南備寺は今昔物語ゆかりの薬師如来が祀られています。いつの頃からか本堂に「耳石」を奉納するようになりました。年老いても難聴にならないよう、皆でお祈りしました。

最後に訪れた棚倉孫神社の祭神は天香古山命(アマカゴヤマミコ)、別名、高倉下命(タカクラジミコ)で

す。

天香古山命は、収穫した稲を貯蔵する穂倉を守る神様です。別名の高倉下命は、神武天皇が熊野で窮地に陥ったときに、神剣ツツノミタマを献上し救ったことで有名です(古事記)。絵馬堂に掲げられている米杵の額は米寿を健康で迎えることができたお礼に奉納されたものです。

参加された方々の健康長寿を願いながらJR京田辺駅で解散しました。(竹村)

### 11月4日 JRふれあいハイク

#### 「千鉾山から甘南備山へ京田辺の雲上を歩く」

前日から当日朝方にかけての雨にもかかわらず50代～80代の56名の方が参加。空模様を気にしながらの出発となりました。4班編成



朱智神社

でJR三山木駅からバスで高船へ。集落の高い石垣や鈴なりのユズなど山里の風景の中、加工センター・極楽寺・石船神社を経て笠上神社に到着。いつもなら楽しめる南山城奈良方面の眺望は霞んで何も見えず残念でした。市内最高峰の千鉾山登山の後、一路天王へ。途中、稲株の残る棚田や生駒山を眺め、アケビを手に歩くうちに青空が広がり、朱智神社では木漏れ日の中で昼食をとりました。午後は小雨の中、尾根道の落葉を踏みしめながら穂谷方面へ下り、尊延寺側から甘南備山に入山しました。神奈備神社・展望台経由で山を下り一休寺を目指しました。山々の紅葉はどこもまだ早かったのですが、一休寺門前では見事なトウカエデの紅の色が目を楽しませてくれました。

JR京田辺駅迄15Kmを歩き通したお客様の笑顔が何より嬉しく、爽やかな一日となりました。

(尾崎)



## 市民参画型観光研修会の開催

従来は会員のみを対象にして、年2回外部講師を招き、観光ガイドの基礎知識を勉強してきましたが、本年



観光研修会

度は地域づくり団体全国協議会の補助を得て、市民参画型の研修会を2回にわたり実施しました。

講師には観光学に詳しい、京都産業大学上級客員研究員の中江好喜先生をお招きしました。

第1回目は9月14日(土)、受講者66名が「日本庭園の歴史と見方」について学びました。スライドを交えた庭園観賞の基礎等を熱心にメモに取る姿が印象的でした。

第2回目は10月19日(土)、受講者59名が「仏像の見方について」の講義を受けました。十三仏から入り、仏像の誕生・仏像の特徴、特に如来・菩薩や印等詳しく教えて頂きました。京田辺唯一の国宝である観音寺の十一面観音や、重文の壽宝寺の千手千眼観音のスライドを見て、他の名だたる仏像に劣らぬ立派さに改めて認識を深めました。

受講後のアンケートでは、60代を中心に30代から80代まで幅広い年齢層の方々に大変良かったと好評でした。また京田辺に関連したテーマを希望される方も多く、会員の質の向上と共に、要望に沿った市民参画型の研修会を今後も続けていきたいものです。(土居厚)

## 管外研修 一休禅師ゆかりの地を訪ねて

今回は一休禅師が青年期に参籠・修行された近江の名刹を訪ねました。初めに石山寺を拝観。紅葉の参道



石山寺

を進み石段を登ると寺の名の由来となった天然記念物の硅灰石が目前に聳え立ち、樹間には最古の多宝塔が凜とした姿を見せてくれました。本堂も又、最古の舞台造りで内陣の奥には秘仏の御

本尊が祀られているという。一休は21歳の時、17歳から5年間師事し敬愛していた謙翁禅師の急逝にあい、埋葬後に石山観音に7日間の参籠をしましたが、心の傷を癒す事は出来ませんでした。

22歳になった一休が次に師と仰いだのは琵琶湖堅田の祥瑞寺に住む華叟禅師でした。

山門の横に「一休和尚修養地」の石碑が建ち苔むした庭の敷石をたどると静けさの中に方丈が広がる。祥瑞寺は何度も兵火にあいながらも地元の支持で復興・維持され、近江の臨済宗の中心道場として栄えてきました。



華叟の教育は厳しく、一休にとっても命がけの修行生活であったが、そんな中で一休は、

「有漏地から無漏地へ帰る一休み

雨ふらば降り 風ふかば吹け」

と詠んでいます。27歳の時、大悟の境地に達したと伝えられ、足掛け13年余り修養した華叟の許を辞し、独立しはじめた一休は35歳になっていました。天皇の皇子として生まれながら権勢と闘い、赤貧の中にあっても常に民衆に禅の教えを説いて行った一休の生き方に学んだ一日でした。

(岡井)

## 今後の JR ふれあいハイク冬号のご案内

### 『筒城宮伝承地に鉄・生糸・酒造りの

### ルーツを訪ねて』

平成26年2月22日(土) 雨天中止

JR 三山木駅 9:45集合⇒佐牙神社⇒蚕飼育旧跡⇒新宮社⇒普賢寺ふれあいの駅(昼食)⇒大御堂観音寺⇒酒屋神社⇒筒城宮伝承地⇒JR同志社前駅15:15頃解散

歩程10Km 参加費 200円

\*別途、観音寺拝観料400円(希望者)

お問い合わせお申込みは観光案内所まで。

Tel 0774-68-2810

Fax 0774-68-2817

Email: info@kyotanabe

『シリーズ:古事記編纂 1300 年記念、  
京田辺市の古事記を歩く』  
『第二回目:大住隼人舞に海幸彦・山幸彦神話の起源を訪ねて』

平成25年2月11日、JR松井山手駅～諏訪ヶ原公園～天神社～大嘗会田跡～月読神社(隼人舞の解説とビデオを観る)～大住車塚古墳～天津神社～JR大住駅までのコースを歩きました。

スタート地点の諏訪ヶ原公園には、今回のテーマである隼人の里・大住を俯瞰するのに絶好の場所があります。そこには、ゆったりと東から西へ迂回して流れる木津川に向かって、次第に傾斜を緩めながら長閑な人里が広がっています。

この光景が、次に訪れた天神社の境内からもかつては見られたそうです。天神社は、元は桓武天皇が長岡京遷都にあたり、中国の「郊祀」に倣って都の南部・交野柏原の地で冬至の日に天神を祀られた場所なのですが、いつの代か現在のこの向山に遷されたと言われています。祭神は天つ神・伊邪那岐、天照大神です。



天神社

記紀には、妻伊邪那美のいる死者の国から逃げ還った伊邪那岐が川で禊をした時に、その左目から天照大神、右目から月読命、鼻から須佐之男命が生まれたとあります。

次に訪れた月読神社の祭神・月読命はその三貴子の一つ、夜の国を治め、月を読む、つまり暦を司る農業神で、隼人の信仰する神です。

古事記の最も有名な神話の一つ「海幸彦・山幸彦」には、浦島伝説にも似た釣り針事件があって、弟山幸彦が海神・大綿津見神の助けを得て兄海幸彦を服従させる経緯が語られています。隼人はこの海幸彦の末裔で、月読神社に今も伝わる隼人舞の仕草は海幸彦が潮満珠で溺れそうになる様子を表しています。山幸彦から神武に至る大和朝廷に帰順した隼人は、天武朝の頃には九州大

隅半島からここ大住に移り住み、隼人舞を奉納し、宮殿警固に当たりました。(平城宮跡から渦巻紋の隼人の盾が出土)。或は新嘗祭、特に天皇即位時の大嘗会には大住隼人が奉仕し、そのための田畑・大嘗料は地名として残っています。その地に立つ「大嘗会田跡」の碑も訪ねました。明治初年までは大住の人達が宮中に土地の果物を献上していたという記録も残っています。



隼人舞

その当時は水量ももっと豊かで岸も近かったと思われる木津川を行き交う船から見ると、大住車塚古墳はさぞかし偉容を誇って見えたことでしょう。この古墳の主ももしかしたら隼人の人かも知れないと言われています。



大住車塚古墳

隼人づくしの今回のコースを歩き終えて、宮中警固のため平城京へ、古の山陽道を南へと向かう隼人の若者たちのさんざめきがどこからか聞こえてきそうな、そんな気持ちになった。とは参加者のお一人の感想でした。(大内)

京田辺市の観光は

観光ボランティアガイドをご利用ください。

- \*1 グループ 15 名以下とし、1 グループにつきガイド 1 名が案内します。
- \* 諸経費として 1,000 円を頂きます。
- \* お問い合わせは観光案内所まで。

Tel 0774-68-2810

Fax 0774-68-2817

Email: info@kyotanabe

